

自然の中で
子どもの五感を刺激し、
次世代のリーダーを
育てていきたい



本牧地域の子どもたちを対象に、五感を養う自然教育を行なっている片山千明さん。自身が山や海に囲まれて育ったこともあり、自然環境の中での体験を次世代の子どもたちにも楽しんで欲しいとの願いから、会社勤めを辞めてマカドニアの活動を開始した片山さん。自然教室にお邪魔して、お話を伺いました。

◆親子で楽しむ、自然の中での五感教育

横浜市中区南東部にある本牧地域を拠点に活動している片山千明さん。5年ほど前から、「本牧自然学校マカドニア」の名義で自然と触れ合いながらの五感教育を続けています。インタビュー当日も大鳥中学校コミュニティハウスにて折れた野球のバットからお箸を作るという体験教室が開催され、たくさんの親子連れの参加者が手を動かしながらお箸づくりを楽しんでいました。

このような体験教室にとどまらず、昨年、「特定非営利活動法人 プロジェクト マカドニア」としてNPO法人登記も行い、園舎を持たず課外活動を中心とした自然教室などの新しい試みも含めて活動を拡大していくとのこと。その精力的な活動の原動力は、いったい何なのでしょう。

◆子どもたちに、自然と触れ合う喜びを感じて欲しい

「幼少期に自分自身が、山や海に囲まれ自然豊かな福井の地で育ったこともあり、いまの子どもたちにも自然の中でこそ出来る体験を味わって欲しいなと思ったんです。様々な分野の講師の方をお呼びして、五感を養うことの大切さ、自然と触れ合うことの楽しさなどをメッセージとして伝えています。」

都市化が進み、子どもたちが自然に触れる機会が減ってきているなか、自然の魅力を再発見して欲し

いという思いから活動を始めた片山さん。商社に勤務し、その後通関士としての仕事を経て、現在はマカドニアの活動に専心しているということですが、独立する際の不安などは無かったのでしょうか。

「座学偏重の傾向が見直され、教室での勉強とは違った軸の学びへの注目といった時代の流れや自然教育へのニーズの高まりを感じ、これはうまくいくなと感じたんです。妻も活動をサポートしてくれたので不安はありませんでした。」

と、明るい調子で語る片山さん、NPO 法人の運営や自然教室でのゲスト講義の開催に関しても、

「運営面では五感教育の専門家の方々にもご支援をいただいています。マカドニアの自然教室でも、縁が縁を呼ぶ形で協力者と出会うことができ、漁師さんや農家の方、プレイパークの運営者の方など様々な分野から講師をお招きしています。」

とのこと。バイタリティ溢れる片山さん自身の行動力と、その気さくな人柄が多く仲間を惹き付けているのかもしれない。

◆園舎を持たず、自然に飛び込む「かいじゅうの森ようちえん」

NPO 法人としての目玉の活動となる、課外活動を中心とした自然教室「かいじゅうの森ようちえん」をこの4月から開園するとのこと。

「園舎を持たないことが最大の特徴で、季節ごとに横浜・鎌倉の様々な地域を毎回移動しながら自然教育を行います。そのため自然教育の中での幼児教育の総称として「ようちえん」と呼んでいますが、学校教育法上の幼稚園とはまた違った活動です。」

本牧の本牧山頂公園や北鎌倉にあるアトリエ・ハウス「たからの庭」をベースキャンプに、海・山・川とダイナミックに移動しながら自然の中での五感教育を行うとのこと。餅つき、田植えに畑仕事、花火やお祭り、キャンプにスキーと、活動は盛りだくさん。

「脳が発達する幼少期に、刺激があふれる自然の中で活動することによって子どもの五感を刺激し、生きる力を養うことを目指しています。特に、運動能力・コミュニケーション能力・言語力（暗唱・読書）の3つの力を伸ばしていきたいと考えています。」

身体全体を使って自然と触れ合う機会に恵まれた「かいじゅうの森ようちえん」のプログラムは、都会での生活とはまた違った刺激を子どもたちに与えてくれそうです。

◆地縁や人の縁をフル活用しての地域活動

本牧の住民の方々へはどうやってマカドニアの活動を広めていったのでしょうか。

「町内会に参加し、地元のお祭りにも出るなかで知り合いの輪を広げていきました。ちらしや掲示板を利用したの広報活動も行ないましたが、口コミでの広がりも大きいと思います。」



片山さんは本牧に住み始めてまだ 5 年ほどとのこと、お祭りなどの地域活動へ積極的に参加しながら多くの人をマカドニアの活動に巻き込んでいます。

「本牧という地域は、引っ越してきた僕のようなよそ者も多いから、意外と溶け込みやすいんですよ。」
とのこと。

地縁や人の縁を有効活用してのマカドニアの活動、今後も様々なプロフェッショナルとのコラボレーションが実現しそうです。

◆横浜市と協働してのまち普請事業

マカドニアでの活動の一方、今年度横浜市により実施された「ヨコハマ市民まち普請事業」コンテストに本牧山頂公園和田山地区地域連絡会というグループで参加し、「本牧山頂公園里山あそびプロジェクト」が見事整備助成対象事業として選出されました。本牧山頂公園内に、雨水貯留施設やせせらぎ、学習農園や野草園を整備し、子どもたちが自然に囲まれながら学び交流する場を整備するプロジェクトです。このように身近な施設の整備＝ハード面でも横浜市と市民活動が協働することで、片山さんの目指す自然教育の機会がより多くの人びとへ提供されることは、非常に喜ばしいことですね。

◆次世代のリーダーを育てたい

ところで、“マカドニア”という一見変わった名前の由来が気になっている方もいるのではないのでしょうか。

「地名である間門（まかど）とマケドニアをかけたものです。アレクサンドロス大王のマケドニア王国のような力強さで、横浜に留まらずいずれは日本全国へと活動を拡大していきたいと思っています。」

「かいじゅうの森ようちえん」をはじめ、今後の更なる事業拡大を見据えて、資金面も含めた支援の手を募集しているとのこと。

「五感教育を通して育てたいのは、次世代のリーダー達です。マカドニアから未来の日本を背負う人材が出て来て欲しいと願いながら活動を続けています。」

と、熱い想いも。

地域に根ざして積極的に行動することで着実に道は開けることを示している片山さんの活動。これから市民活動を始めたいと思っている方々も、まず一步踏み出してみたいはいかがでしょうか。

